

世界の学生28人 学修成果を発表

東農大プログラム

アジアの「食・農・

環境」の未来を世界の
学生らで描く東京農業
大の「国際体験学修プ
ログラム 2025」
が6月から2カ月のス
ケジュールで行われ、

最終日の5日、参加した学生らによる成果発表が同大世田谷キャンパス（世田谷区）であった。

同プログラムには、日本、台湾、フィリピン、スリランカ、ザンビア、アルメニアなど計9カ国・地域の8大学から28人の学生が参加。同大オホーツクキャンパス（北海道網走市）を拠点に、オホ

ーツク海沿岸域の農・水産業や世界自然遺産・知床を中心とした自然環境のフィールドスタディーを展開した。

参加した学生らの専攻は農学、生命化学などさまざまだが、一つのフィールドで「食・農・環境」の相互作用と調和の在り方を学んだ。漁業とSDGsについて研究した学生は、サケの養殖過程で出る栄養素を含む廃棄物を農業生産に活用する取り組みを説明し、「世界に広めたい」と語った。

来月3日、世界学生サミットをインドネシアで開催する。

【三枝泰一】



参加した学生同士の討論—東京農大世田谷キャンパスで

同大とネットワークを組む世界の24大学は